

“等しい”それが数学の出発点

数学、何故学ぶのか

数学科主任 大和澄夫



海原

題字 河原孝好先生

発行
平成 18 年 12 月 22 日
第 27 号
海 城 学 園
海 原 会

〔海原会事務局〕
〒 169-0072
東京都新宿区大久保
3-6-1 海城学園
TEL 03-3209-5880
FAX 03-3209-6990
E-mail : unabara@kaijo.ed.jp
海原会 URL
<http://www.unabarakai.jp/>
海城学園 URL
<http://www.kaijo.ed.jp/>

今号の紙面

等しい、それが数学の出発点……
海城祭／海原会総会出席者／19年度募集要項……
アンケート結果／HP告知／訃報／永年会費納入者……
会費納入のお願い／国体出場小林拓矢君……
同期会・クラス会等通信……
活躍します「松田武司さん」／朋遠方より来たる……
海城学園名誉園長 故江頭豊氏を悼む……
那須高原だより／クラブ・委員会活動……
田中政一先生祝賀会／編集後記……
8 7 6 5 4 3 2 1



◎数学について
何故数学を学ぶのか、数学が存在するか、答えたいと考えています。しかし、「このような理由があるから数学を学ぶ」という定理は数学の問題ではありません。したがって、普遍的な真理とは言えないのです。けれども私という自身に関する限り真理は存在します。私が何故数学を好み、数学を学ぶのかを述べさせていただきますと思います。

◎私が数学を好む理由

まず、数学の真理は何の権威にもありません。ピタゴラスの定理（三平方の定理）など、二千年も三千年以前から朽ちることない姿を我々に見せてくれています。何の力も借りず自身で時間と空間を越えて正しいことを主張しています。他の幾多の定理や性質も同様です。しかも数学の発見は誰が使うかと制限がありません。まったく

◎数学という言葉について
数学はギリシア時代にその名前を与えられました。もとは

数、図形、天文、音楽の四科を総称する言葉 $\mu\theta\epsilon\mu\alpha\tau\alpha$ （マテマータ）と呼ばれていました。数学の「マテ」の部分は考えるということです。ところで、英語で $sound$ という単語に音の他に健康や健全といった意味があることに気づいていないでしょうか。数、図形、星々、音たちの間に調和関係（実際は様々な比で表される）がある場合を $sound$ と呼んでいます。完全調和を愛することをフィルハーモニーと言います。ギリシアで音階を定めた人が他ならぬピタゴラスであると言われていた図形が星形であることは有名な事柄です。この図形を用いたハープなどのある弦、その半分の長さの弦の間を八分割して音階を定めていました。完全五度などの概念はこのときに生まれました。そして、ピタゴラスは彼の教団（少し宗教がかったといふように）のシンボルマークにこの星形を用いていました。尚、現在の音階は1939年に一オクターブを指数関数を用いて12等分（相乗平均）することに定められました。現在はオクターブと呼べないと思いますがこの言葉は慣用的に使用されています。天体、特に惑星の運行などは比と関係のあることは言う必要はないと思います。数学とは調和（比）を学ぶことに付けられた名前であったわけ

◎数学教育とは

数学の公理や定理は人間の存在に関わらず厳然と存在するものです。これらを発見できるのは幸せです。数学教育の話に行く前に、私の数学感の出発点

となっている言葉や本の話をさせていただきます。はじめに岡潔さんの言葉引用させていただきます。氏は多変数解析関数論等で世界的に評価が高く、雪の研究で知られる中谷宇吉郎博士とも親交がありました。28歳から31歳までフランス留学で自らの研究課題と、ラテン文化に対する日本文化の深遠さに対する感覚を得たと言われています。氏の『春宵十話』のはしがきより、「数学とはどういうものか」ということ、自らの情緒を外に表現することによって作りだす学問芸術のひとつであって、知性の文字板に、欧米人が数学と呼んでいる形式に表現するものである。また氏は孔子の言葉から学問に対する態度を次のように言い表しています。「理性（大地）の上、理想（蒼昊）へさうびん、大空の下に住んで、土を段々上に上げていけばよい。理想が心の機関車とならない社会は存在の意義があるのでしようか。」

次は本校でも今年国語の授業で中学2年生が学んでいる漢字の白川静さんの本です。氏の何冊かの本を読んで科学感というものがかかったような気がしています。私は世界で初めての科学者は文字を作った人たちではないかと考えるようになりました。何故かという、何か抽象的な事柄や今まで表現できないようなことがあるとします。例えば色の赤を仲間に説明したいと考えます。すると火と人という文字を組合せ、ひとがたき火にあたって火照った状態を表す文字「赤」を考えました。身近な具体的なもので抽象的なイメージを表現しようとする苦勞と楽しさが伝わってくるようです。漢字を作ったひとではあり

ませんが、言葉「矛盾」や「想像」を考えた韓非子は古代最大の科学者のひとりであると思っています。科学とは氏の本を通じて、何かとてもみんなに伝えたい事柄を自分の持っている能力、イメージを用いて説明したいという欲求である、と思うようになりました。

さて、数学教育とはどういうことか考えてみましょう。学問の流れとは、既に存在している真理、それらの一部を幸運にも見ることでできる人が発見し、伝えることのできる人が人間の言葉に翻訳します。教育は、この後半部分を担っていると考えられています。社会現象や自然現象の翻訳者という立場です。かつて川端康成氏がノーベル文学賞を受賞しました。このときの翻訳者サイデンス・テッカー氏も立場として理想のひとりです。西洋の情緒を日本語で表現できることを証明した上田敏氏もそうです。『海潮音』は日本語で書かれた最も美しい証明が載っている本だと思っています。

◎何故数学を学ぶのか

少し和算の話をします。江戸時代、吉田光由という人の書いた『塵劫記』という数学書が裏長屋のようなところでも見受けられたそうです。この本には算盤の使い方からとても現実問題とは思えない今でいう整数や組合せの問題まで記載されています。何が言いたいのかわかりませんが、日本には俳諧をはじめ、数学を受験をその拠り所としないで学習をしているという事実があるのです。ですから学問を突き詰めて考えることでその学ば意味が出てくるように思います。何かの役にたつための数学という今の学習指導要領の考えは正しいのでしょうか。残念ながら計算や証明法の基礎など越えなければならぬハードルがあることは事実です。この障害を越えるための報酬を示さねばなりません。この報酬が「役に立つ」や「受験」でよいのでしょうか。かつて、日本人は

茶を飲むことを茶道、格闘技を剣道や柔道と「道」までに高めることができました。これは独り言です。数学を学ぶ意義は数学の出発点にあると思います。数学で一番始めに学ぶことは「等しい」ということです。数学での証明は原則的に事柄の言い換えを行ってゆくようなものです。事柄の正しい言い換えをたくさん持っていることが数学を円滑に考える大事な条件となります。問題文の記述と等しい数や数の集合を発見することが方程式を解いたり問題を解いたりということになります。数学の存在意義はいくつかの事柄の間の等しさを探し、関係を発見するということでしょう。文化は分化に通ずると思います。しかし、物事の健全な発展には統合感が必要でしょう。一見異なるものが一段高い見地に立ったとき、互いに他の一面であったということが数学を学ぶと頻繁におこります。すると多くの公式は単なる便法であって本質の理解が重要であることもわかります。『博士の愛した数式』も数学で最も重要な定数たちの関係が見事にひとつの式で表現されています。e はかけ算と足し算の橋渡しをする数、ネピアが19年をかけて発明し、オイラーがその無限の価値を悟りました。かけ算が現在のように簡単にできるようなるまでには数世紀を要しているのです。この数を用いると2の125乗といった計算ができるようになります。自然科学だけでなく金融関係にも重要なものです。π はまったく異なるものと丸いものを結びつけます。i はマイナスイの平方根という神秘的なものです。中学一年で学ぶ角の二等分や回転など図形の問題と数の計算を結びつける役割をしています。1 はものごとの単位です。0 は数の世界の中心です。数学を学ぶ意義はできるだけ多くのものから共通な同じものを引き出し、結びつける能力を養うことにありと信じています。

本紙&海原会ホームページアンケート報告

「同期会・クラス会報告」に強い関心

本号で会報「海原」も 27 回目の発行となります。「海原会会報」を「海原」と改称し、1993 年に第 1 号が発行されて以来、海原会会員の皆さんに支えられて 13 年の歳月を経ることになりました。しかし、いつの時代においても読者の方の声なくしては、紙面の充実を図ることはできません。

そこで平成 18 年度海原会定例総会時、出席者全員にむけて、本紙についてのアンケートを実施しました。また、広報活動の一環として、2005 年立ち上げた海原会ホームページに対する調査も併せて行っております。ここに、その結果をご報告いたします。

また、その他、追加したら良いと思う項目があれば記入ください。

1 ニュース 20
2 写真館 15
3 広場 7
4 連絡室 6
5 校歌 4
6 会長挨拶 3
7 役員名簿 2
8 リンク 2
歩み 1
会則 1
(多い順に記載)

- * 進学及び就職情報
- * 世界で活躍してる卒業生
- * 学校の部活状況：応援体制
- * イベントの日程

(追加希望のあった項目)

(5) その他、会報「海原」及びホームページについて、ご要望がありましたらお聞かせください。

8	活躍してます	9
9	那須高原だより	6
10	永年云費納入者リスト	3
11	編集後記	2
12	海原会ホームページ	2

〈その他、特集記事〉

(3) 海原会のホームページについて。

a	パソコンがないので見た ことがない	11
b	パソコンはあるが見たこ とがない	22
c	数回見た程度	26
d	頻繁に見る	3

(4) ホームページのどのような項目に関心がありますか。
(複数可)

* 総会のアトラクション(良かった、またお願いしたい。
 * 会報について：編集者の増を望む。
 ホームページについて：投稿しやすい雰囲気づくりが必要。

祝 小林拓矢君
インターハイで日本新！



50 m自由形

小林拓矢君は、他のトップ・スィマーと同じようにふだんは地元のスイミング・クラブで練習し、高体連主催の公式大会に出場するため本校の水泳部でも活動しました。高校2年生までは、都大会の決勝まで進んだのですが、あと一步のところで関東大会の切符を逃してしまいました。その悔しさから3年生になっても練習を続けた結果、インターハイで日本新記録を出すなど見事な成績をおさめることになりました。現在は、受験勉強に励む一方、2008年の北京オリンピック大会の準強化選手に指名され、一流の指導者のもとで厳しい練習を続けています。

（水泳部顧問 飯沼良夫）

▼
▼
▼
「短信」

現在、中国政府及び陝西省府の招聘により、西安外国語学院の教授として赴任している本紙編集委員の一人、小出湧三さん（昭和34年卒）から、同窓の宮澤宏次氏から譲り受けていた「海

城新聞」昭和34年1月13日付第71号を、編集委員会で保管していただきたい旨の申し出がありました。わら半紙一枚の表裏に、小さな文字がびっしり。内容を一部紹介すると、「試験回数増すか」で、試験制度の改正について生徒達に不満があり、それ

に對して学習指導部長の意見が掲載されている。そのほか、校門脇に「電話BOX」設置される。「本格的放送機」いよいよ設置。「本校生挑戦す」大学・就職。朝日新聞社主催「都外駅伝」に参加。決定（陸上部、立川を出发点に調布・三鷹・村山・青

梅一人王子・立川間87キロメートル、12区間のレースに選手選抜。同好会結成「バトミントン」などの記事があり、貴重な資料と判断したので、学園と協議のうえ、資料室で預かって頂くことにしました。

（小川晴望 記）

（小川晴望記）

永年会費納入者（敬称略）

[illegible]

会費納入はお済みですか？

海原会の運営はすべてみなさんからの会費収入によってまかなわれています。そのためにも会費未納（永年会員を除く）の方は、ぜひ同封振込用紙により納入してくださるようお願いいたします。

年会費（毎年払込む） 3,000 円
永年会費 30,000 円以上

[illegible]

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

敬称略

計報

通

信

同期会・クラス会等

◆幹事のみなさまへ
同期会・クラス会を開かれた時は
海原会事務局まで、写真・原稿を
お寄せください。

昭和26年卒
海原二六会

▼夢の中の青春を今に

◎平成18年6月18・19日

◎於・川治温泉「お宿東山閣」

◎参加者・10名

今年の旅行は、今までの伊豆から初めて川治温泉での懇親会旅行となった。今回は土井君の紹介で実現したもので、新宿発「JR特急」と浅草発の二箇所からの出発で現地合流した。川治温泉は、享保八年（1723年）に発生した洪水被害時に偶然発見されたという。以来、十数軒の宿が温泉街を造り、鬼怒川温泉の奥座敷として親しまれてきた。その歴史の深さ、重みを温泉とともに身体に感じながら一夜を過ごすことになった。夕食は、宿自慢の山海の珍味を、酒とともに十分過ぎるほど腹の中へ納め、満足度200%の状態

昭和18年卒
海原一八会

▼人生八十歳を超えて

◎平成18年10月12日（木）

◎於・ホテルグランドヒル市ヶ谷

◎出席者・16名

81歳の同期会は10月20日、ホテルグランドヒル市ヶ谷、真珠の間で開催された。参加する者16名、昨年と同数である。久



態で、マジヤンとカラオケで懇親度を一層深めることになった。泊りがけの懇親会は、修学旅行（奈良・京都）における開放的雰囲気と喜びを再現させるもので、「枕投げ」や「シーツはがし」など、大声をあげて騒ぎまくり、宿から注意を受け、先生にも叱られた記憶がよみがえる。忘れられぬ青春時代。当時のことを思い起こしながらの話は、夜半まで続いた。翌日は梅雨の真只中での奇跡的な快晴日光へ出かけた。

今回の参加者は、写真右より

星川、中村、高田、小館、土井、山内、太田、菅井、水尾、小竹の10名であった。

（写真 星川敏夫、

資料 太田稔、小川晴望 記）

追記 健康は金で買えない

年6回偶数月の第4日曜日に

開催している「二六会」は、10

月22日午後2時から、太田稔

君の店「アルシュ」で始まっ

た。出席者は「市川、太田、小川、小竹、立石、土井、中村、藤田、水尾、山内、山口」の11名で、毎回来ていたK君の姿が見えず、その気になる病状について報告があった。70歳も半ば近くになると、「健康は金で買えない」と言っても気になるのは健康。病院、医師の選び方も重要であるとともに最大関心事。（写真 立石博巳、小川晴望 記）

昭和25年卒
海原二五会

▼戦友たちの宴

◎平成18年10月11日（水）

◎於・グランドアーク半蔵門

われわれの大半は、昭和19年海城中学校（旧制）に入学、25年同高等学校（新制）を卒業した。名簿によると、卒業生数は約150名だが、うち住所不明者37名、物故者24名となっている。住所不明者がかなりいるが、これは卒業以来58年、その間の社会の混乱や激変に要因がある。10月11日、恒例の同期会をグランドアーク半蔵門で開催。いつも、30名から40名ほど参加す

昭和16年入学
同期会

▼遠路各地から諸兄集まる

◎平成18年10月28日（土）

◎於・中野サンプラザ

◎出席者・36名

毎年恒例となった同期会に、今年は遠路福山、関西、清水、小田原の諸兄が顔を見せてくれた。

戦後60年、80歳を目前に、おだやかな日々を送っている一方、昨日、出来た事が今日はできないという驚きもあったりする。今年はまず足の便を考え、今年と同じ中野サンプラザを選んだ。

2次会はカラオケバーに行き、愉快な時を過ごし再会を約して散会した。

（天田尚孝 記）

昭和24年中学入学 テッチャン会

▼今年は7回忌

◎平成18年10月13日（金）
◎於・第一ホテル
◎出席者・10名
「テッチャン会」それは昭和24年海城中学に入学し、クラス替えのなかった3年間を同じE組で育った者たちの集まりである。担任は3年間田中鉄夫先生。航空母艦の甲板のような校舎の屋上からは西方に富士山、丹沢山塊、北方には筑波山。戦災で焼け残った新宿の三越、伊勢丹も指呼の間にあった。
田中先生を囲んで母校の食堂などで会を開くようになってから、誰がつけたのか「テッチャン会」。今でも2年に1回程度集まっている。



その先生も平成12年に他界され、今年は7回忌。仲間も年を重ね、病没や体調のすぐれぬ者も出てきたが、最後の2人になるまで続けようと冗談を言っては励ましあっている。
そんな「テッチャン会」が10月13日に第一ホテルで開かれた。
（峯村純一郎 記）

平成17年卒 クラス会

▼内田先生、宙に舞う

◎平成18年6月17日（土）
◎於・高田馬場 居酒屋清瀧
◎出席者・28名
去る6月17日、海城を卒業して以来、今回が最初となる平成17年卒3年2組のクラス会が開催されました。

クラス会当日は、内田先生にも参加していただき、総勢28名の仲間達が一堂に会しました。卒業してから流れた一年という歳月は、我々の髪型を変え、髪の色を変え、ファッションを変えましたが、一度語り合い始めると、目の前で話している仲

間の「今」の姿と「高校時代」の姿が重なり、我々の個性というか、中身の部分は昔のまま、と実感できました。高校時代の思い出や近況報告、将来の夢など、話題は尽きることがありませんでした。アルコールも手伝ってホロ酔い気分の中、時間が経つのもあっという間でした。
高田馬場駅のロータリーで一次会を解散する段になって、誰からともなく内田先生を胴上げしようという声があがり、その直後、内田先生は、宙を舞われました。その時の我々の表情は確かに在学当時のものに帰っていたと思います。高校でも大切な時間を共にした仲間達との絆の強さを改めて感じられた瞬間でした。
（鈴木洋平 記）

昭和34年卒 クラス会

▼それぞれの生き方で

◎平成18年7月19日（木）
◎於・新宿 中村屋
◎出席者・15名
平成18年7月19日に昭和34年卒関下組のクラス会が新宿・中



村屋で開催されました。アレンジしたのは宇野耕平くん。関下先生を含めて15人の集まりでした。先生は、非常に若々しく、初めて参加した人の中には先生が参加されているのに気が付かなかった人もいた位でした。
2回目の集まりだったので和気藹々の内に進行しました。そして改めて卒業して48年間の個々人の軌跡を辿ってみました。みなさんが激動の昭和時代を如何に生きてきたかというところが徐々に明らかになり、我々はそれなりに社会に貢献してきたことが確認できました。現在は、既に退職した方、未だ働いている方とそれぞれの道を歩んでいます。
一人ひとりが発表した後、関下先生がコメントを述べられ、改めて高校時代の各人を確認できました。先生の記憶力には驚かされるところがあり、本人さえ忘れていることをしっかりと先生は話されていたのです。
来年の再会を期して散会しました。
（小出湧三 記）

平成13年卒 クラス会

▼先生より激励のお言葉

◎平成18年8月19日（土）
◎於・第一ホテル
◎出席者・19名
理系クラスだった我がクラスはクラスメイトの大部分が大学から大学院へと進学しているため、現役で大学に行った人なら修士卒で来年就職。
仕事でみんなが時間を取りづらくなる前に同窓会を、ということで開催のクラス会が企画された。

岡田先生も交え新宿で行われたクラス会ではみんなの近況、先生の近況が報告され、バラエティに富んだ会話にもおおいに花が咲き、17時に始まったクラス会もあつという間に終電近くとなっていました。



平成10年卒 クラス会

▼結婚している同級生も

◎平成14年3月2日
◎於・海城高校カフテリア
大変遅くなりましたが、平成10年卒9組の第1回同窓会を開催しました。「海原」に投稿しようと思いついたが大変遅くなりました。幹事がなまけものでどうもすみません。
あの時は、高校卒業から4年経ち、大学を卒業するメンバーが多い時期に「1回やろう」ということで集まりました。あれからもう4年。早いです。同級生の何人かは既に結婚！しています。「第2回を！」という声も頂いているのでまた開催します。是非、また集まりましょう！
（幹事 鷲尾 記）
arxwashio@hotmail.co.jp

岡田先生から社会へ出て行く我々への激励の言葉もあり、お互いの今後の成長を願いつつ今回のクラス会はお開きとなりました。
なお、今後も1、2年ごとにクラス会を行っていくこう、という話になったので、今回参加できなかった人も、是非、次のクラス会で会いましょう！
（築島謙太郎 記）



野球部観戦記

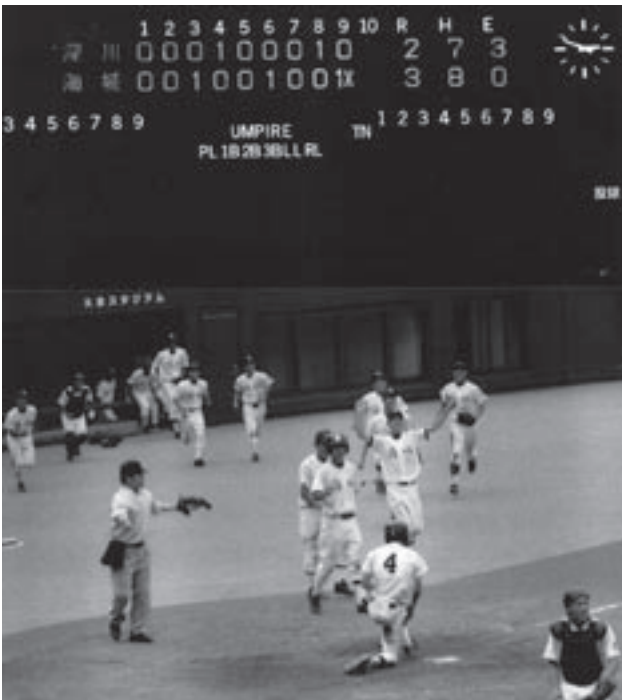
7月14日夏季大会の1回戦を迎えた。場所は太田スタジアム。相手は都立深川高校である。

ちょうど一週間前に学校で野球部OB会があり、現役の練習を間近に見てアドバイスなどをしたOBの面々が、数多く顔を見せていた。

試合は、海城が3回にショート鵜野君（2年）のライト前タムリで先制した。しかし、次の回には、連打で同点を許し、さらに無死3塁とピンチに立った。このピンチに投手北森君（2年）は後続のスクイズを外し、その後も2三振と切り抜けた。おそらく、この回の攻防が勝敗の分かれ目だったかも知れない。

6回にさらに1点を挙げ再びリードをしたが、終盤の8回に四球がらみで追いつかれてしまった。悪い形の失点でもあり、いやな予感がする展開でもあった。

スタンドには、野球部の父母・卒業生・吹奏楽団・現役の生徒・教職員が緊迫した試合内容に手に汗にぎりながら声援を送っていた。試合は、大詰めの9回裏、1



死から主将の田畑君（3年）が、1塁前にセーフティバントをきめた。本人もやろうと思っていて監督からもサインがあったらしい、ベンチと一体になったバントであった。次のバッターは三振に倒れて2死1塁となり、チャンスはなくなっと思われたが、次打者久野君（3年）の2球目にキャッチャーが球をそらし、得点圏の二塁に進むことができた。その後、カウント2・2からエンドランのサインが出て、久野君の打球はつまりながらも二塁ベース上を転がっていた。エンドランでスタートを切っていた田畑君がサヨナラのホームを踏み劇的な勝利をあげた。
サヨナラの瞬間、大歓声のスタンドであった。私も野球部OB達と握手をして勝利を喜んだ。投手の北森君は11三振を奪い、チームも7安打でエラーが0個という内容だった。何よりもエラー0というのが、勝因である。
昨夏1回戦も4点差を9回に逆転しての勝利であった。2年連続の劇的な勝利は、われわれOBを十分楽しませてくれた。奮闘の選手の皆、良い試合を有難う。また、高3の野球部員お疲れ様でした。
（昭48卒 中村久憲）

海城新聞OB会

▼見聞 黄金時代を築いた仲間達

◎平成18年10月26日(木)
◎於・小田急ホテルセンチュリー
サザンタワー

◎出席者・15名
オブザーバーとして出席、その様子を伺った。

集まった仲間は昭和25年卒から35年卒の活躍したOB達。幹事の森田三朗氏(29卒)の司会進行で最長老の梅澤喬二氏の音頭で物故者の冥福を祈った。特に海城新聞及びOB会の為に尽力された岸本和夫氏(27年)の追悼を併せて開催された。当時の海城新聞の一部を披露。当然、自慢話に花が咲いた。今ではとても考えられない新聞作りをしたもんだと感服する。驚いた。愉快だ。創刊当時は「海城新聞社」である。しかも編集発行人は大島厚太郎、沖為雄、下村徹と言う名だたる大先輩。そして2、3年後の黄金期を迎える。海城新聞は全国コンクールで高校新聞のレベルを上回る



活躍してます

松田武司

(まつだ・たけし)さん
(昭和29年卒)

松田武司さん(S・29卒)は千代田区神田佐久間町でギフトカードなどを主としたユニークな文具店を経営している。戴いた名詞に便・封・典札、フォーシーズ・マツダとあり、単なる文具店と異なることがわかる。場所は、大規模再開発で目まぐるしく変わりつつある、今話題のJR秋葉原駅前である。創業は明治40年で、今から100年前、祖父の代から三代続いている。江戸っ子と言うが、正に神田で生まれ育った生粋の神田っ子である。

(取材 石原長夫／取材協力・写真 鈴木武道)

「芸は身を助ける」

毛筆で自ら書いた、のし袋をサービスに
創業明治40年の老舗文具店を守る

◎突然に家業を引き継ぐ

松田さんが、今の仕事を始めるきっかけとなったのは、21歳の時である。お父さんが脳いっ血で急死され、お母さんはその前年に亡くなられていたから、長兄として弟3人と妹1人の面倒を見なければならぬ。それまでは家業を継ぐための手伝い

との賛辞を受け、朝日賞、毎日賞などを獲得、世に轟かした。その頃、活躍したのが梅澤先輩達のを継いだ、岸本和夫、布利幡嘉男、森田三朗、市川武昭氏など長渡先生の記事にもあ

「その時は怖いもの知らずで飛び込んで取材したもんです」(笑)大先輩の野村吉三郎、菊池寛賞の亀井勝一郎、当時の文部大臣天野貞祐、各界著名人。警視総監へのアタック、人気歌手の並木路子などへの取材、鈴木茂三郎社会党委員長の対談。GHQ新聞課長への会見。歌舞伎役者「おもだかや」と中島教諭との対談など話は尽きない。

海城新聞は岸本氏らと共に大きな功績を残した。そしてOB会は来年を約して散会した。
(会報担当 山本満男 取材記)

た、学生時代から習字が得意なので、お客様の目の前で毛筆でのし袋に書くことが喜ばれ、リピートも出る。月平均の売上は1200枚も出て、立派な売上の柱になっている。

◎褒められてますます上達した書道

文字といえば、習字の時間に田中鉄夫先生に作品を褒められたことがある。先生は近來の秀作と評されて三重丸を付けられた。褒められると乗せられるもので、それからは練習もし、自信にもなった。

現天皇が皇太子の時、米国外遊記念の書道の展覧会が三越新宿店にあった。各校より3人選出された中に入り、出展した。隸書で45文字の作品であったが、入賞してますます自信となった。

「芸は身を助ける」。先生が褒めなかつたら書道も上手くならなかつたし、銀座の鳩居堂さんとの付き合いもなかつたと思う。

◎計画を立て変化を求める

商品の取り扱いについては慎重である。市場の動向を含めて旺盛な行動力で精力的に国内外を歩かれています。

ギフトカードも海外の珍しいものを揃えている。

こうして地道に店頭販売を充実させていった、松田さんは千代田区文具事務用品組合の組合長を8年やり、今年70歳を期

に辞めて後任に譲った。在任中は当初60社あった会員が時勢もあつて38社に減った。

就任した時から毎年の新年会で「変化を求める」をテーマとして掲げて発表して各社に求めた。何をやるのか分らなければ、店へ尋ねてくれば今、必要な変化を教えると話した。新年は門出に当って計画があり、昨年のことを参考にして信念が出来る。

だから先ず計画がなければならぬ。

・商品の流通
・人間のコミュニケーション
今、何を売るべきか

これらを同業者で研修会を開いて自分のノウハウを教えている。そのことが自分の店の売上に悪影響を及ぼすとは考えていない。小売業の大切さを考えると、今はインターネットの時代だが、アナログの考えでやって

いる。先日、和菓子の老舗に嫁いだお嬢さんが、大口の注文を受けた時、夜明かししてでも手造りで作ると言っていたが、和菓子の餡子も機械より手造りの方が良いのと同じだと思っ

◎いつも奥様と一緒に

商売の発想と同じように松田さんは常に「人」を中心に考えている。それは、身内に対してと同じことだ。お店は日曜、祭日以外は休みがないが、正月やお盆休みには奥様と海外旅行をすることもある。感性を磨く絶好の機会である。

特に印象に残ったものとして、還暦の時に行ったエジプトがある。ノルウェーにあるトロムソという街では北極圏に來たという証明書をもらった。メキシコではアカプルコに行き、タスコという美しい銀細工を見た。ギリシャでは大理石で有名なスミオン岬で、地球上でもこんな美しいところがあるのかと感動した。

忙中閑有、といった状態で趣味と健康の両方に気を配っている。幸いに二人とも現在まで大病をしていない。

朋 遠方より来る

長松 幹榮 (昭和18年卒)
函館在住

7月下旬、カムチャッカから巨大クルーズ商船「飛鳥II」が函館に寄港した。我が友百瀬洋君が乗船しているのので会いに行った。彼の配慮で訪問客No.001番の登録をし、証明書を首からかけた。テロ対策の為に空港より厳しい。昨秋の同期会以来の再会である。東京で会う時と感情が相異し、かつて大連埠頭での出会いの心境によく似ている。

シーマンシップの話題から、いつの間にかエレベーターにてキール(船の最低部)へ来ていた。このIT豪華客船は、排水量5万トン余、乗組員400名、乗客700余名の美船姿である。

今度はナインデッキまで昇ると言われ、後を付いて行く。彼は未だ敏捷である。私は杖をついて遅れがち、すまんがもう少しゆっくり歩いてくれと頼む。9階には屋外プールがあり、ア

クアリングの初級者講習も実施されるという。当日は曇天冷涼寒々としていた。頭上を見ると万国旗でなく信号旗が飾られ、旗の説明を歩きながら受けた。

「オイ長松、運動会の時、家庭いっばいに信号旗を掲げ、来賓、職員用テントのポールは、カッターのオールを使用していたのを憶えているか？」と問われ、その件については全く失念していた。

5階がメインデッキ。食堂は満席、止むを得ず隣接のピアノバーで食事を摂った。食事の話は主として旅路の話で楽しく拝聴した。



そして入学時の話になった。当時は東西南北の4クラス編成で、1クラス50名。成績順でクラス分けされていた。私は北組で、担任の有吉豊先生は、生徒にブライドを持たせるために、佐賀訛りを駆使して一生懸命教えてくれた。入学前のある日曜、佐世保から父と下見に学校を訪れた時、校庭に一人の2年生がいた。父と私は礼をして、学校の様子を尋ねたところ、大変丁寧な応答を頂き、最後に「頑張れよ」と声をかけてくれた。入学後分かったことだが、陸軍幼年学校に入学され、来校時感謝を込めて敬礼した。その人こそ百瀬君の令兄であったことを知り、縁の不思議さを感じた。あれこれ話が弾むなか、下船時刻が来た。

ゴルフも良く行くが、今までにホールインワンを3回やっている。

日常生活では3度の食事をシッカリ取って主に和食主義だ。晩酌は日本酒で1合を燗として飲む、身体を冷やしてはいけない。肉は豚肉を週に三日は摂る。とんかつの美味しい店の話などに移って、話は尽きない。

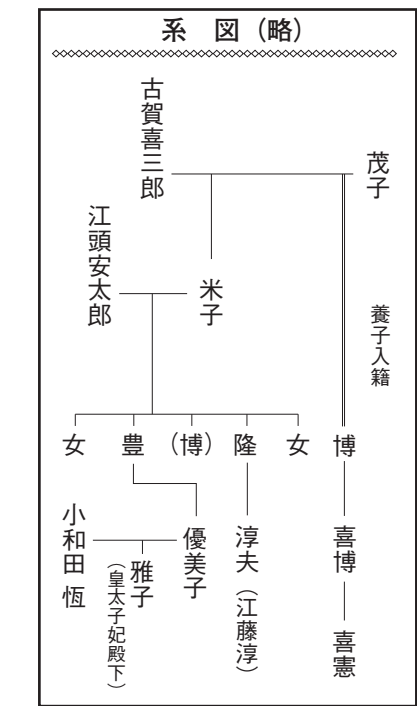


〈左〉博、〈中〉淳夫（江藤淳）、〈右〉豊
海城学園創立百周年記念祝賀会にて

江頭安太郎の關係から筆を起こさねばならない。
肥前史談会発行のの先覚者小伝に、次のように記されている。
『江頭安太郎
海軍中将従四位勲二等功三級。慶応三年を以て北川副村木原に生る。佐賀中学を出で鍋島侯の貢進生として上京し攻玉社に入り修業多年、明治十五年海軍兵学校に学び、十九年優等首席を以て卒業し次で少尉より漸次大尉に昇進し、廿四年海軍大学校に入り是亦成績一等にて卒業し双眼鏡を拝受す。日清戦役には軍務課員に拔擢されて軍務に従事し、三十六年大佐に進み教育本部第一部長に補せらる。又日露戦役には大本営参謀となり全軍の枢機に参画して功績あり。四十一年海軍少佐に任じ、旅順佐世保両鎮守府参謀長、人事局長、軍務局長等に歴

任し、大正二年一月中将に陞任、病氣を以て待命仰付けらる。某の人と為るや、思慮周密にして事を処するに容易に鋒鋷を現はさず、而も頭脳明晰にして判断力に富み、某の軍務局長の職に在るや海軍諸規則の改正を断行して名声を博し、当時海軍唯一の生字引を以て称せらる。未来の海軍大臣として期待されたるが、大正二年一月二十二日遂に卒す。享年四十七』
この安太郎が、古賀喜三郎の息女米子と結婚し、三男二女を得る。長男が隆、次男が博、三男が豊である。次男博は、幼少の9歳にして古賀家を継ぐため、祖父喜三郎のもとに養子として入籍する。晩年、博は親兄弟と離れ寂しかった夜を、時折語る事があったのが印象深い。

豊は、明治41年1月16日、東京に生まれる。幼少から少年青年にかけて、博と豊は仲の良い兄弟であり、山にスキーに旅にと行を共にする機会も多かったと聞く。
二人で北アルプスに登った帰り、富士山にも登りたくなり、そのまま富士登山して、帰宅したところ大騒ぎになっていた話を、博は語っていた。
山が好きだった豊は、海城卒業後、旧制松本高校に進学。登山を楽しんだり、ヴァイオリンを弾いたり、絵を描いたりして勉学に励むと同時に青春を楽しんだ。
卒業して、東京大学法学部に入學。昭和8年、同大学卒業後銀行への道を選択して、日本興行銀行に入行、資金部長、人事部長、融資第3部長、中小工業部長、常務取締役大阪支店長



喜三郎、安太郎、博、豊、淳夫、皆故人となつてしまった今、人間の生命の何と短いものかを思い、一方創立者が理想に燃え

最後に、個人的な思いを書くことをお許しいただきたい。
筆者は、故人とは叔父と甥という身内の関係なので、追悼文として、美辞麗句を連ねること、褒め称えること、感情的な感想は避けたつもりである。しかし、長年にわたり身近にある良き理解者であり、指導者であり、人生の先達であったことを考えれば、最大級の尊敬を表したい。最晩年、病院に見舞いに行くと、聞き取りにくい言葉で、楽しそうに話をしてくれたのを思い出す。とても穏やかな臨終であったこと、98歳という天寿を全うしたことで良しとしよう。

豪雨の通夜祭
『昨夜（平18・9・26）は、故江頭豊氏の通夜であった。神式で行われたので、正確には通夜祭である。東京・信濃町、一行院・千日谷会堂で行われたこの式場周辺は夜、折から通過中の前線の影響で大変な豪雨、おまけに風が強く大荒れの天気であった。江頭氏が過こした大正0時45分、静岡県富士市の病院で死去。98歳』江頭氏は雅子様の母小和田優美子さんの父。62年に旧日本興行銀行から水俣病を引き起こした当時の新日本窒素肥料（現チッソ）に派遣された。被害者との補償交渉が進められる中、64年に社長に就任。その後会長や相談役を歴任した。

そして通夜祭は27日に、葬儀・告別式は翌28日に皇太子・同妃殿下ご列席のもと千日谷会堂において営まれた。
当日の様子については、故人と長年にわたり交流があった沖為雄氏（昭和22年卒、元本学園監事、元海将・横須賀地方総監、前財団法人三笠保存会理事長）より、追悼の文章を拝受し、お許しを得たので、その一部をご紹介します。

『私は豪雨のその夜、万感の思いをこめて江頭豊ウシノミコトに拝礼し、本当のお別れをしたのである。』
斎場は故人の手柄と喪主・小和田恆氏（故人の長女・優美子さんの夫、皇太子妃殿下の父君）の知名度の故か会葬者にあふれ、立錫の余地もない程であったが案内者の誘導により、末席に座ることが出来た。』
更に沖氏は、幼少の頃からの故人や江頭淳夫（筆名江藤淳、故人の甥）との交流を懐かしく語られ、次のように結ばれている。

故人は本校の卒業生であり、長年にわたり学園の評議員・監事・理事を歴任した。
なぜ、このように長期にわたり学園経営に関わったかを知るには、本校創立者古賀喜三郎と同郷の後輩である、故人の父、

等を経任する。この間、業務上の精神的、肉体的な無理が重なり、後年の発病の遠因となる。在勤中、陸軍經理将校として出征、ノモンハン事件に遭遇する。敵中より脱出を図る際、作戦的に二手に分散、結果として別の隊は全滅し、彼の所属した隊は無事帰還した話。塹壕に潜伏している際に、目の前にソ連軍の戦車が現れた話。3秒前まで自分が座っていた金庫の前の椅子に、敵弾が命中した話。また後年、長年の無理が原因で、脾臓炎を発病、死の淵を歩き、夜毎死神の影に怯えるも、当時貴重品であったペニシリンの使用で九死に一生を得る。余程強い星のもとに生まれてきた人であつたのかも知れないと、長女優美子は語っている。昭和37年、新日本窒素肥料（現チッソ）に水俣病補償問題解決のため、日本興行銀行より派遣される。昭和48年退任し相談役になるまで、決して周りに弱音をはく人ではなかったが、その交渉は並大抵のことではなく、筆舌に尽くしがたい苦勞を経験した。

海城学園においては、古くから評議員・監事、昭和39年から理事に就任した。
常に学園運営の中心となり、校地拡張、校舎や各種施設設備の増強等、新規計画の検討に、旧来の事項の検討にと、豊富な経験から貴重な意見を提出し、兄博を助けること大であった。那須高原海城中学・高等学校の発足に際しては、将来の日本にとって必ず重要な意味を持つ学校になると、評価をしていたのが印象的である。

平成16年、体調を崩して富士の病院に入院、同時に学園役員を引退するまで、その功績は偉大なものがあつた。
一方、前出沖氏も幼少の頃から親しく交流があつた江頭淳夫（筆名江藤淳）は、本校の卒業生ではなかったが、海城学園の教育に深い理解を示し、東京工業大学教授、慶応大学教授時代も含めて、評議員として惜しみなく協力をした。彼も那須高原校の計画に際して、現在の日本

平成18年9月24日
海城学園名誉学園長江頭豊（大正14年卒業）死去
当日の新聞報道を転載すれば『江頭豊氏（皇太子妃雅子様の祖父、元チッソ会長）24日午前0時45分、静岡県富士市の病院で死去。98歳』江頭氏は雅子様の母小和田優美子さんの父。62年に旧日本興行銀行から水俣病を引き起こした当時の新日本窒素肥料（現チッソ）に派遣された。被害者との補償交渉が進められる中、64年に社長に就任。その後会長や相談役を歴任した。

式で行われたので、正確には通夜祭である。東京・信濃町、一行院・千日谷会堂で行われたこの式場周辺は夜、折から通過中の前線の影響で大変な豪雨、おまけに風が強く大荒れの天気であった。江頭氏が過こした大正0時45分、静岡県富士市の病院で死去。98歳』江頭氏は雅子様の母小和田優美子さんの父。62年に旧日本興行銀行から水俣病を引き起こした当時の新日本窒素肥料（現チッソ）に派遣された。被害者との補償交渉が進められる中、64年に社長に就任。その後会長や相談役を歴任した。

鎮魂の詩想さえぎる豪雨かな
黙祷』
そして沖氏より追伸として転載をお認めいただくと共に、『故江頭豊先生に対します私の尊崇・敬慕の念に就きましては、何卒、ご割愛されません様お願い申し上げます。』との断り書きをいただきます。これをもつても、故人の手柄が偲ばれるものと思ひ、敢えてご紹介をした次第である。

任し、大正二年一月中将に陞任、病氣を以て待命仰付けらる。某の人と為るや、思慮周密にして事を処するに容易に鋒鋷を現はさず、而も頭脳明晰にして判断力に富み、某の軍務局長の職に在るや海軍諸規則の改正を断行して名声を博し、当時海軍唯一の生字引を以て称せらる。未来の海軍大臣として期待されたるが、大正二年一月二十二日遂に卒す。享年四十七』
この安太郎が、古賀喜三郎の息女米子と結婚し、三男二女を得る。長男が隆、次男が博、三男が豊である。次男博は、幼少の9歳にして古賀家を継ぐため、祖父喜三郎のもとに養子として入籍する。晩年、博は親兄弟と離れ寂しかった夜を、時折語る事があったのが印象深い。

等を経任する。この間、業務上の精神的、肉体的な無理が重なり、後年の発病の遠因となる。在勤中、陸軍經理将校として出征、ノモンハン事件に遭遇する。敵中より脱出を図る際、作戦的に二手に分散、結果として別の隊は全滅し、彼の所属した隊は無事帰還した話。塹壕に潜伏している際に、目の前にソ連軍の戦車が現れた話。3秒前まで自分が座っていた金庫の前の椅子に、敵弾が命中した話。また後年、長年の無理が原因で、脾臓炎を発病、死の淵を歩き、夜毎死神の影に怯えるも、当時貴重品であったペニシリンの使用で九死に一生を得る。余程強い星のもとに生まれてきた人であつたのかも知れないと、長女優美子は語っている。昭和37年、新日本窒素肥料（現チッソ）に水俣病補償問題解決のため、日本興行銀行より派遣される。昭和48年退任し相談役になるまで、決して周りに弱音をはく人ではなかったが、その交渉は並大抵のことではなく、筆舌に尽くしがたい苦勞を経験した。

海城学園においては、古くから評議員・監事、昭和39年から理事に就任した。
常に学園運営の中心となり、校地拡張、校舎や各種施設設備の増強等、新規計画の検討に、旧来の事項の検討にと、豊富な経験から貴重な意見を提出し、兄博を助けること大であった。那須高原海城中学・高等学校の発足に際しては、将来の日本にとって必ず重要な意味を持つ学校になると、評価をしていたのが印象的である。

最後に、個人的な思いを書くことをお許しいただきたい。
筆者は、故人とは叔父と甥という身内の関係なので、追悼文として、美辞麗句を連ねること、褒め称えること、感情的な感想は避けたつもりである。しかし、長年にわたり身近にある良き理解者であり、指導者であり、人生の先達であったことを考えれば、最大級の尊敬を表したい。最晩年、病院に見舞いに行くと、聞き取りにくい言葉で、楽しそうに話をしてくれたのを思い出す。とても穏やかな臨終であったこと、98歳という天寿を全うしたことで良しとしよう。

